

## 抄 録

## Beiträge zur Klinik der Tuberkulose Bd. 79, H. 5. 1931.

## 非抗酸性結核菌問題ニ就テノ微量化學的研究

Möllgard Holger: Mikroskopische Untersuchungen zur Frage der nicht säurefesten Tuberc bacillen

著者ハ前ノ本誌上ニ於テコッホ氏菌及結核性組織又ハ結核症患者ノ血液ノ培養中放線狀菌種ヲ發見シ尙之ハ他ノ從來ノ組織學上ノ染色法テハ染ラズ故ニ發見シ得ザリシモノナルコトヲ報告セルモ今回ハ之ガ染色法ニ就テ研究シタリ、統一的ニ有機性色素ノ組成ヲ各種類ニヨリテ集メ500種ノ色素ヲ用ヒタリ然シテ之ニ顆粒狀型及絲狀型ノ別ヲ染分シ得ラル、コトヲ發見シ、Triphenylmetan 色素ヲ初メニ次ニ Diamino-diphenyl azo naphtalin 化合物ヲ用ヒタリ然シテ是等ノ研究ノ結果 Diamino 5 oxy 7 naphtalin Sulfosäure mit 3 Amyno 2 Antrachinon-phenilmetan ナルモノガ最モ良ク幼若菌ヲ染色スルコトヲ發見セリ。然シテ顆粒狀菌型雙球連鎖狀菌型及絲狀菌型ヲ見出シ得、然シテコノ色ハ褐色ニシテ其他ノ「チール、エールセン」染色法ニ防害セラル、コトナシ、又、顆粒狀型及絲狀型ノ老古型ハ Nentrarot 染色可能及グラム陽性狀態ニ於テ、「メチーレンブラウーアゾアクリジン」類が良シ、是等モ亦組織ノ過染ニナルコトナク又「チール」染色法ニ防害ナシニ明確ニ褐色ニ染ル、然シテコノ Diamino Diphenyl azo Naphtalin ノ類ハ切片標本ノ細胞體ノ染色ニ用ヒ得、然シテコノ方法ニテハ、コッホ菌ノ酵母浸出液ヘノ第一次培養ニモ染色可能ナリ何トナレバ幼若菌ヨリ漸次ニ特性芽胞及ビ分絲狀菌等ヘノ發育過程ヲ行フニヨルガ故ナリ。之ニヨリテ次ノコトヲ發見セリ、此放線狀菌型ハ幼若培養ニテハアントラセン可染色ニテ多少分離性アル絲狀體ヨリ形成セラレ後ノ發育ニテ Mycelium ニナリ一部分内生芽胞ハ「アクリジンメチーレンブラウ」可染色ニナリ後ハ「グラム」陽性トナル、次ニ2, 3ヶ月密閉培養器ニオク時ハ此放線狀菌型ハ多數ノ側枝ヲ出シ特性芽胞ハマツ顆粒性粒體棒狀ニナリ後

ニ之ガ長キ雙球菌連鎖體トナル、之ハ又酵母普通「ブイオン」中ニ培養セラレ得然シテ多クノ變型ヲ過ツテ顆粒狀棍棒型菌カ又ハ連鎖狀菌體ニ發育ス、多クノ場合ハ然シ大ナル内生芽胞ヲ出シ一部ハ「アントラセン」可染一部ハ「アクリジンメチーレンブラウ」可染體トナル、多數ノ芽胞トシテ見ラル、ガ多シ、尙又、骨髓結核ニ罹リシ犢ノ骨髓ガ8日乃至14日間普通「ブイオン」中ニ培養セラレ之モ亦單核細胞中ニ於テ「グラム」陽性ノ雙球菌類ガ發育ス、又之ヲ培養スル中ニ之ガ連鎖狀菌ニナル、又結核症患者血液ヨリ白血球赤血球ハ「ザボニン」ニテ破壊セラレ之レヨリ顆粒性非抗酸性菌種ヲ培養シ得タリ、之ハ形態學上ニ染色親和性ヨリ放線狀菌ノ側芽胞類似ノモノナリトス、然シテ著者ハ是等ノ菌ハ事實上人體ニ於テ病害アルヤ否ヤハ不明ナリト。(太田抄)

## 肺臟「レントゲン」像ニ於ケル小結節像ニ就テ及ビ其臨牀的意義(第一報)

Westenrijk, N: Studien über Vorkommen von Knötchen im Röntgenbild der Lungen u. ihre Klinische Bedeutung(I. Mitteilung)

著者ハ肺「レントゲン」像ニ現ハル、小點像ガ結核性結節ナリヤ否ヤガ一般ニ確認セラレザルニヨリ Dürenev Krackenhauニ於テ80例ノ患者ニ就テ次ノコトヲ研究セリ、即一見健康ナル如キ小兒ニ於テ上肺野及下肺野ニ米粒點ヲ又中肺野ニ於テ結核初期變化群ノ他ニ縱隔竇ト平行シテ小結節像ヲ見ル然ルニコレ等ノ一部分ニ於テノミ「ツベルクリン」陽性ナク之ヲ結核性ナリトスレバ結核症ハ吾人ノ考フルヨリモハルカニ早ク全治スルモノナルコトヲ考ヘ得、又成人ニ於テモ、カ、ルモノヲ見ルトテ7例ヲアゲテ説明セリ、勿論之ヲ連續的ニ線像ヲトリ同ジ條件ニテ撮リシモ之ニ常ニ同ジ像ヲ即小結節像ヲ發見セリ、之恐ラクハ小兒時代ノモノナラント考フ、然シテ著者ハカ、ル人物ハ特有性抗力ヲモツカ又ハ本來石灰化シ易キ良性經過ヲトル様ナ性ヲ有スルモノナラント考ヘタリ。(太田抄)

肺浸潤ノ鑑別診断(Ⅱ 第二次性肺浸潤ノ鑑別  
診断ニ就テ)

Löffler, W: Zur Differential-Diagnose der Lungen in filtrierungen III. über Differential Diagnose der Sekundärfiltrierung.

他ノ肺浸潤ト第二次性肺浸潤トノ區別ハ 非常ニ困難ナルコトアリ、著者ハ之ニ該當スル 9 例ノ患者ヲ擧ゲテ此レ線像ヲ示シ 此困難ナルコトヲ著シク 特述セリ。  
(太田抄)

赤沈反應率ハ肺結核症豫後判定上如何ナル  
價値アルヤ

Szűe, Dionysius: Ist von Gesichtspunkte der Prognose bei Lungentuberkulose der Senkungsvuotient in Betracht zur Ziehen?

著者ハ 1000 例ノ患者ニ於テ 2000 回ノ赤沈反應ヲ研シ、Lutz u. Wahl ノ赤沈反應率ト Katze ノ中間値ト Westergren ノ 1 時間 2 時間下降値トヲ比較シテ豫後及診断上如何ナル關係アルカラ研究セリ。

0—40 耗(1 時間)ニテ 19.5% 丈ケ率ガ 1 以上ニシテ 80 耗以上ハ 1 以下ナリ、又 1 以上ノ比率ノモノニシテ其中 3.7%ガ良好トナリ、1 以下ノ者ニシテ 2%ガ悪化シ、1.2%ガ死亡セリ然ルニ 1 時間値ニヨルト 80—100 耗中 0.8%ノ同様 6.6%ノ良好化、100 耗以上ニテハ 1.1%、治癒 6.1% 良化、之ニヨリテ一般ニ多ク下降スルモノハ 悪性ト云ヒ得ルモ、之ノミニヨリテ豫後ヲ決定シ得ザル可シ之ニヨレバ Lutz ノ比率ハ Westegren ノ 1 時間 2 時間値ヨリモ確實ナリトモ云ヒ得ズ。  
(太田抄)

結核症ト内分泌ニ就テ

Kallospaul. Tuberkulose u. innere Sekretion  
Julius Kentzler:

著者ハ結核症經過ハ 免疫性及豫防等ニノミ 關スルモノニ非ズトナシ、其患者ノ 個人的性質ガ 即特ニ内分泌關係ノモノガ 大ナル關係ヲ有ストナシ、體質ト結核トノ關係ニ就テ 體質ヲ大體 4 種ニ分チ、コノ體質ト内分泌臟器トノ關係ヲノベタリ、然シテ 結核症ノ發展ニ個々ノ 内分泌臟器ガ如何ニ 關係スルカノ例トシテ婦人ノ月經トノ關係ヲアゲ 又副腎ト結核トノ關係「アドレナリン」過敏性及糖代謝等ヲアゲ 又甲状腺ハ最も重ナルモノナリ、結核感染ノ結果トシテ 其機能亢進ヲ來シ 又不良體質及過量結核感染ニヨリテ 甲状腺機能が不可能ニナリ、然シテ是等ノ製劑ヲ用ヒ

タル結果ヲ述ブ。

(太田抄)

肋膜炎浸出液ノホーン氏培養法ニヨル結果  
報告

Levin, Nils: Einige Resultate mit Hahn-Züchtung auf Pleurapunktaten.

著者ハ肋膜浸出液ノホーン氏培養法ヲ行ヒ之ニ肋膜液ヲ透明不透明ニ分ケ、透明ヲ漿液性、漿液氣體性ニ分ケ 濁濁セルモノヲ 結核性膿胸及氣體性膿胸トニ分チシニ、透明體ニテハ漿液性氣胸ノモノ 83%ニテ多ク、濁濁性ニテモ濃性氣胸ノモノ 100%ナリ、

漿液性	15	21	4	11
濁濁性	12	2	3	2
動物實驗	+	-	+	-
ホーン氏培養	+	-	-	+

ナル成績ナリ。

特發性浸出性肋膜炎

Mumme, Carl: Über Pleuritis exsudativa „idiopathica”

初期特發性浸出性肋膜炎ノ 發現ニ就テ 今日尙確定セラレズ然シ著者ハ 感冒性肋膜炎ナルモノモ一般ニ懷疑ヲ以テ見ラレテ居リ 細菌學的ニハ 總テノ肋膜炎ハ皆動物實驗ニヨレバ細菌ノモノニシテ 然モ大部分ノモノハ 肺及氣管等ニ 潜在性結核ノ存セシコトアルカ存スルモノナルコトハ確實ナリ Landory ハ特發性肋膜炎患者ノ 98%ハ結核性ナリ然シテ肋膜炎ヲ結核ノ確實ナル初期症候トセリ、之アタカモ初期咯血ノ如シ。

Aschoff モ亦カクノ如シ、然シ又輕症肋膜炎ニテ細菌學的ニ 又動物實驗的ニ又顯著的ニモ何レニモ浸出液ヨリ病原菌ヲ 發見シ得ザルコトアルハ事實ナリ、之ヲ以テ然シ結核性浸出液トハ 全ク別物ナリト云フコトヲ得、即結核ノ經過ニ 肋膜炎ヲ發生スル時肋膜ニハ結核性病竈ヲ 見出サザルコトアリト云ヒ得ル、之レヨリ著者ハ肋膜炎ナルモノハ 常ニ初期感染以後ノモノニシテ肋膜炎ガ初期發病ニ非ズト、最近 10 年間ニ 216 例ノ特發性浸出性肋膜炎ヲ見テ 50.3%丈ケ肺病竈等皆結核性トナシ得、又患者ノ 90%ニ浸出液中淋巴細胞ヲ 10%ノミニ 中性細胞ヲ見タリ。又血液ハ 88.3%ハ淋巴細胞夥多ナリ、年齢ハ 10—30 年ガ 65%ニテ最多シト云フ。  
(太田抄)

肺「スピロヘータ」病

Mecklenburg: Über spirschae ois pulmonum.  
 著者ハ2例ノ肺「スピロヘータ」病ヲ報告セリ、即1例ハ慢性経過ヲトリ肺結核ト思ハレシモ喀痰中ニ多数ノ「スピロヘータ」ヲ發見シ結核菌ヲ見ズ、「チオサルブルサン」ニテ治癒ス、1例ハ急性ニシテ肺炎型ナリ、之モ治癒セリト。  
 (太田抄)

#### 肺臓微毒ノ診断

Dundholm I und W. Mascher: Zur Diagnose der Lungensyphilis.

肺臓微毒ハ事實上非常ニ稀ニシテ診断モ亦剖檢上ニテモ非常ニ困難ナリ、Österrand (Schweden)ノ病院ニ

テ2例ヲ得テ診断セリトテ之ヲ報告セリ。(太田抄)

#### 肺結核症ニ於ケル上部部分的形成術及其器械ニ就テ

Thomsen: Der erweiterte ohre Teilplactfick bei Lungentuberkulose u. ihre Instoumentarium.

肺臓ノ上部空洞ノミナル時ハ上部ヲ部分的形成術ヲ行ヒテ充分ナリ、然ルニ今日迄上部ハ行ヒ得ザリシハ上部ハ大ナル萎縮ヲ來サズ、即著者ハ之ニ上部即第一第二肋骨ノ彎曲ニ相當セル一種ノ鉤ヲ作り、之ヲ用ヒテ大ナル骨片ヲ切りテ之ニ成功セリトテ其器械ヲ寫眞ニテ説明セリ Brunner 型ナリ。(太田抄)

### Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 60, H. 1, 1931.

#### 肺結核空洞治癒ノ疑議ニ就テ

Friedrich Koester: Beitrag zur Frage der Kavernenheilung.

著者ハ肺結核患者ノ有スル空洞ニ就テノ、最近10年間、殊ニ Licht 氏ノ空洞ニ關スル問題ニ就テ研究シタ。先人ノ説ハ大部分ハ空洞ガアツテ、假令夫レガ鶏卵大デアツテモ、自然ニ治癒スルモノデアルト云フ事ニ一致シテ居ル、以上ノ説ヲ基トシ、著者自身ノ臨牀上ノ實驗ヨリ考ヘルトキハ、肺結核ニヨツテ生ジタ空洞ハ確ニ治癒スル事ヲ肯定出來ル。即チ特ニ目立ツテ良イ結果ト云フベキハ、患者ノ一般状態ノ良クナル外ニ、Röntgen 像ニ於テ輪狀ノ影、喀痰中ノ結核菌、空洞ノ在ツタ場所ニ聞エタ囉音等ノ消失ニヨツテ、大キナ空洞モ臨牀上ニハ治癒シ得ルモノト考ヘル、殊ニ不適當ナ人工氣胸術ニヨツテ、滲出液ヲ生ジタモノ等ニ於テモ萎縮ヤ厚皮形成ニヨツテ全治シ得。  
 (三神抄)

#### 結核死亡率ト産兒減少トノ關係

Dr. Otto Glogauer: Tuberkulosesterblichkeit und Geburtenrückgang

産兒ヲ制限スル爲ニ、國家ノ統計上ヨリ、殊ニ婦人ノ方面ヨリ觀察シテ結核ニヨル死亡率ハ興味アルモノデアル。各國トモ結核ニヨル死亡率ガ減少スルト同様ニ出生率ノ減少アリ。殊ニ丁抹、獨逸、蘇格蘭等ノ如ク出生兒數ガ極端ニ減少セル國家ニアツテハ、結核ニヨル死亡率ハ同様ニ極端ニ減少シテル、又出生率ニ夫レ程ノ減少ヲ見ナイ伊太利、瑞典等ノ國ニアツテハ死亡率モ減少セス。例外トシテ和蘭ニアツテ

ハ、結核ニヨル死亡率ガ非常ニ減少シテ居ルニモカカハラズ、出生率ハ夫レ程甚シク減少セス。又芬蘭ニテハ之ト反對ニ出生率ハ非常ニ減少シテ居ルニモ關ラズ、結核ニヨル死亡率ハ夫レ程減少セス、之レハ兩國ノ家事竝ニ社會組織ノ異レル特徴ヲ明ニ語ルモノデアル。其他特別ノ場合トシテ日本丈ハ出生率ニ多少ノ減少ヲ見ルニ過ギヌニモ關ラズ、死亡率ハ之ト反對ニ上昇シテ居ル、之ハ世界戦争後ノ統計ニテ日本ガ他ノ國ニ比シ戦争ノ影響ヲ受ケタ割合ガ少ナカツタ爲デアラウ。

一般ニハ結核ニヨル死亡率ヲ示ス曲線ハ出生率ノ夫レト大體竝行スルモノデアル、此ノ事實ハ家族ノ數ヲ減少スル事ニヨリ國民ノ生計ヲ豊ニシ、爲ニ絶對的ニカ又ハ相對的ニ結核ニヨル死亡率ヲ下ゲルモノデアル、併シ時ニ例外ノ國ノアル事等ヨリ考ヘル時ハ結核ニヨル死亡率ノ昇降ハ豫防醫學ノ效績ノ消長ヲ語ル標準トモナルモノナリ。  
 (三神抄)

#### 結核ノ多イ地域ニ於ケル小兒ノ罹病關係

Ernst Seiffert: Ergebnisse einer Umfrage über die Verhältnisse bei Kindern aus tuberkulöser Umwelt.

著者ハ結核ノ多イ地域ニ住ンテ居ル幼兒723人ト小兒335人ニ就テ之レヲ其ノ環境ニ分類シテ觀察シテ見ルニ即チ工業ノ最モ發達シテ塵煙ニ包マレテ居ル大都市及ビ都市竝ニ田畑ヲ含ム、中等大ノ都會ニ就テ見ルニ罹病率ハ傳染ノ有無ニヨツテ差アルニ非ズシテ、其ノ都市ノ衛生状態、非衛生ノ場所ニ曝サレテ期間ノ長短、相互ノ傳染ノ頻繁度等ニ關係スル

モノテアル、此ノ内最も原因ヲ作ルモノハ衛生關係ニシテ、次ハ危険ナ場所ニ長ク住居スル事テ、傳染ノ頻度ハ極メテ關係薄イモノテ、此ノ事實ハ年長ノ子供モ乳兒モ同様テアル。

完備セル衛生施設ニ於テハ豫防接種ハ例外ナシニ良イ結果ヲ齎スモノテアル、之レハ先年 Oslo 市ノ世界結核病學會ニ於テ Calmette 氏ガ BCG 菌ヲ用ヒタ子供ニ就テ講演シタ報告ト同様テアル。(三神抄)

### 成人ノ氣管枝淋巴腺結核

Dr. E. J. Schulz: Die Bronchialdrüsentuberkulose des Erwachsenen.

著者ハ患者ニ就テ多數ノ胸部 Röntgen 寫眞ヲ背腹位竝ニ第一斜位ニテ撮リ、肺結核ノ發生ニ關シ、以前過信サレテ居タ Ranke 氏一派ノ學說ハ最近人ノ肺結核ニ就テハ最早信セラレナクナリ、以前ニ氣管枝淋巴腺結核ト思ハレテ居タモノハ、昨子供ニノミ適用サルベキモノト云フ。

近時又 Philippi-Davos 其他ノ學者ノ研究ニヨリ、成人ニモ亦肺門部淋巴腺結核ガアル事明ニナリ、氣管枝淋巴腺結核ト云フ事ハ益々考ヘラレナクナレリ。夫ニ故ニ Röntgen ニテ背腹ニ撮レル寫眞ニテ表レル肺門部ニ於ケル變化ハ常ニ信用出來スモノテ、殊ニ Holzknacht 氏間隙ニ淋巴腺ノ集合ヲ見ル時ニハ斜ヨリ寫ス要アリ。(三神抄)

### 主トシテ經口ニ「タナトフチヂン」ヲ用ヒテノ結核治療

Dr. W. Hedrich: Tuberkulosebehandlung mit Thanatophthisin, insbesondere bei peroraler Gabe.

著者ハ Freiburg ノ製藥會社ノ求メニ應ジテ多數患者ニ使用セリ、Thanatophthisin ハ牛型及ビ人型ノ結核菌ヲ處理セル馬ノ血清テ、經口ニ用フルモノト皮下注射用トアリ。

著者ハ經口ノ一用ヒ體重、體溫、赤血球沈降速度、喀痰量、血液像等ヲ觀察セル一、割合ニ短期間用ヒタルノミナルモ、重症肺結核症ニテハ效果アルガ如シ、殊ニ他ノ對稱ニ比シ一般症狀ハ、可成リ具合良シ。特ニ著者ノ用ヒタ所ニテハ副作用殆ンドナク、人工氣胸術、胸膈矯正術、横隔膜神經捻除術等他ノ療治ノ不適當ナ患者ニハ用ヒテ見ル價值アリト思フ。

### 結核菌「ワクチン」「カプラン」ニヨル肺結核治療ニ就テ

Dr. Alexander Rad: Über die Behandlung der Lungentuberkulose mit der Tuberkelbazillen-Vakzine Kaplan.

著者ハ 1928 年ニ Michael Kaplan 氏ノ作ツタ結核菌「ワクチン」ヲ患者ニ用ヒタ。

Kaplan 氏ニ從ヘバ、此ノ「ワクチン」ハ彼獨得ノ培養ニヨツテ作り、「リボイド」ト含炭素ノ特殊ノ配合ニヨルモノテ彼ハ結核菌ノ Vitale Abbaustufen テアルト呼ンテ結核ニ良ク效クト云フ。

此ノ Kaplan 氏ノ培養ノ特徴ハ結核菌ノ中ニ常ニ必ズ顆粒ガ生ズル事テ、Säurefest ノ物質ヨリ順次變化セルモノ即結核菌ノ變型テアルト云フ。

著者ハコケ年間ニ療養所ニ入院中ノ患者ニテ、空洞ヲ有スル 53 人、浸出性 47 人ニ用ヒタ結果ヨリ、此ノ「ワクチン」ハ特殊ナ性質ノモノテ、大體ハ效果アルラシク見ユル、殊ニ體重ノ増加、赤血球沈降速度ノ遲延、高熱ノ下降等ノ良イ結果ヲ得タ。副作用トシテ一般的ノモノハナイケレドモ、局所ノ作用ガ Koch 氏ノ新「ツベルクリン」ヨリ多少強烈ノ様ニ思ハレル故ニ、著者ハ結核患者ノ治療ニハ 1:1.000.000 ノ極メテ稀薄ナモノカラ初メタ。(三神抄)

### 肺結核患者ノ循環器及ビ植物性神經ノ機能試験

Dr. F. A. Michailow: Über die funktionelle Prüfung des Zirkulationsapparates und des vegetativen Nervensystems bei Lungentuberkulose.

多クノ大家ノ說ニ從ヘバ、輕症結核ハ交感神經緊張形テ重症結核テ且ツ惡性ノモノハ迷走神經興奮形テアルト云フ此ノ事實ニ基イテ、循環器系統ノ機能ノ變化ヲ知ラントセルナリ、Turban 氏ノ第三期ノ患者 750 人ヲ用ヒ、尙之ヲ次ノ 3 種ニ分類シテ、即 A. 中毒症狀ノ見ラレヌ群、C. 高熱、發汗、心悸亢進、下痢、其他ノ中毒症狀ノ明ナルモノ、B. 兩者ノ移行形ニテ多少ノ中毒症狀ヲ呈スルモノナリ、

1) 先ヅ血壓ト脈搏ヲ見ルニ、臥位、立位、運動後トヲ比較スレバ、結核患者ハ一様ニ心臟ノ貯藏氣力ノ減弱ヲ見ル、殊ニ顯著ナルハ、A 群ト C 群トガ運動ノ爲ニ一時的ニ血壓ノ上昇スル事ナリ。

2) 次ニ Sahli 氏ノ橈骨動脈ニテナス、脈波計法ヲ用フルニ健康者ノ對稱ニ比較シテ、肺結核患者殊ニ B 群 C 群ノ如ク中毒症狀ノ表ハレテ居ル者ニアツテハ、心臟ノ收縮作用、即チ收縮力ガ減弱シテ居ル。

3) Nikolaew 氏ノ  $PD - \frac{P}{2}$  ハ常ニ正數ナリト云フ、  
„Herzkraftindex”ヲ用フレバ ( $PD = \text{puls druck}$ ,  $p = \text{Zahl d. pulswellen}$ ) A 型ハ割合ニ健康者ニ近ク、B 型ハ僅ニ正數テ、C 型ハ負數ナリ、Lukomsky 氏ノ示數  $a_2 P_2 - a_1 P_1$  ( $a_2 = \text{arbeit 後ノ Pulsdruck}$ ,  $a_1 = \text{Arbeit 前ノ Pulsdruck}$ ,  $P_2 = \text{Arbeit 後ノ Pulszahl}$ ,  $P_1 = \text{Arbeit 前ノ Pulszahl}$ )ニ於テ A. B. C 各型ハ中毒症狀ノ強イ程零ニ近ク小ニナル。

4) 電流心動描寫圖ヲ見ルニ、中毒症狀ノ強イ程程 T ノ脈頭ガ小サイ。

5) 聽診ニヨレバ、C 型ノモノハ心音が低ク、機能的雜音が聞エ、而モ第二肺動脈音が最早亢進シテ居ラス。

6) 「アドリナリン」ニヨル、血壓亢進ノ度合ヲ見ルニ中毒症狀ノ強イ程程、反應鈍感ニテ血壓ノ變化少ナシ。  
(三神抄)

### Zeitschrift der Tuberkulose. Bd. 61. H. 1. 1931.

#### 肺結核ノ胸廓成形術療法ノ社會的意義

Nissen: Die sociale Bedeutung der thrakoplastischen Behandlung der Lungen-Tuberkulose.

手術ヲ行フ患者ハ慢性肺結核症ヲ空洞保有者ナル。肋膜ハ癒著シテ肺臍ヲ形成シ結締織ノ増殖強ク從テ治癒スル傾向ヲ有スルモ患者自身ノ健康臟器竝ニ周圍ノモノ殊ニ小兒ニ對シテハ尙ホ感染源トナツテキルモノナル。1914 年ヨリ 29 年迄ニ報告サレタ諸家ノ成績ニヨレバ手術ニヨル早期死亡ハ 8—15 % 後死亡ハ 10—20 % ノ間テアル。併シ效果ハ此ノ數ニ比シテ著シク印象深イモノテ相當重症ナ患者テ長年ノ姑息療法テ效ノナカツタモノガ手術ニヨツテ治癒若シクハ著シク輕快シタモノハ 60—70 % テアル。是等ハ再び社會生活ヲ營ミ得ル様ニナツタ。此ノ場合治癒ト云フハ手術後 1—2 年ニシテ完全ナ生活、活動能力ヲ得、熱、喀痰ナキモノヲ云ビ、著シク輕快シタモノトハ結核菌消失シテ最早療養所治療ヲ要セズ活動能力ヲ得タモノヲ云フ。夫故適當ナ患者ニハ成ル可ク多ク成形術ヲ施スノガ吾々ノ義務ナル。之ヲ徹底サセルタメニハ大學ニ於テ學生ニ此ノ實況ヲ知ラシメ此ノ方面ノ興味ヲ喚起セシムルコト及ビ外科醫内科醫ノ協力ヲ必要トスル。  
(池上抄)

#### 肺結核ノ外科的療法ニ對スル社會的因子

(259 名ノ患者ヨリノ回答ノ成績)

I. Zadek, A. Sonnenfeld: Der sociale Faktor bei der chirurgischen Behandlung der Lungen-Tuberkulose. (Ergebniss einer Umfragen bei 259 Patienten).

從來ノ報告ニヨレバ結核死亡ハ結核其ノモノ、性質ニヨル他ニ經濟的原因モ大ニニ關係スルト云ハレテキタガ最近ノ統計ニヨレバ此ノ關係ハ著シク少ナイ。從テ年收額ニヨツテ罹患ノ割合ヲ算出スルヨリ

モ患者ノ經濟的構造ノ實際ニ就テ洞察スルコトガ餘計大切ナル。此ノ見地カラ相談所ニヨル方法ヲ用ヒテ疾患經過ノ社會的因由ヲ知ラント欲シタ。著者ノ報告ハ人工氣胸、横神捻除、填充法。成形術ヲ行ツタ患者ニ就テナサレタモノテ 259 名ニ質問條目ヲ送り 150 名ニ満足ナル回答ヲ得タ。治療後 1.5—2.5 年テ患者ハ其ノ 80 % ニ於テ活動能力ヲ得タ。而シテ其ノ效果ハ經濟的因由ニ餘リ關係ナク、寧ロ患者自身ノ疾病竝ニ周圍ノ者ニ對スル精神狀態ト密接ナ關係ガアル。初メ良好ニ治療サレタ患者テ疾病ノ再燃ヲ來ス傾向アルモノハ惠マレヌ經濟事情ヤ衛生狀態ニ關スルト云フヨリモ寧ロ其ノ患者ノ體質ニ關係ガ深イ。  
(池上抄)

#### 氣胸療法ガ社會的ニ成就サレルタメニハ如何ナル條件ヲ必要トスルカ

G. Frischbier, und W. Kremer: Welche Vorbedingungen müssen erfüllt sein, damit die pneumothorax-therapie sich social auswirken kann?

結核ノ治療上人工氣胸ガ卓越シタ方法ナルコトハザウグマン其他ノ統計ガ示シテキル通りテ之ニ反對ノ意見ハナイ。併シ之ト同様ノ範圍ニ於テ人工氣胸ノ社會的意義ハ働イテキナイ。其ノ原因トシテハ、從來追盈ノ機構ニ就テ完全ナ連絡統制ヲ缺イテキル事。患者ノ經濟的事情ニヨリ治療ヲ完成シナイ中ニ仕事ニ就クコト等ガ舉ゲラレル。是等ノ事情ガ人工氣胸ノ折角ノ效果ヲ臺ナシニスル事ガ甚ダ多イ。著者ハ獨乙全國ニ於ケル追盈ノ組織ヲ完成セシメ早期ニ仕事ニ就クコトヲ避ケシムル様動議シテキル。

(池上抄)

#### 肺結核ノ兩側肺虛脫療法ノ報告 (胸廓成形術竝ニ同時ニ行ヘル他側氣胸療法)

Robert Klopstock: Beitrag zur doppelseitigen

## Kollapsbehandlung der Lungen-Tuberkulose.

(Thorakoplastik bei gleichzeitigen Pneumothorax der Gegenseite).

2 例報告テ 1 例ニ人工氣胸ヲ行ヒツ、アル間ニ他側ニ成形術。(I-VII) 若クハ グラーフ氏ノ肺炎成形術(I-V)ヲ行ツタモノデアアル。何レモ呼吸機能ニハ障碍ヲ來サナカツタ。今迄ニ同様ナ試ヲシタモノハ サムソンノミテ人工氣胸ト成形術ノ併合ニ就テ報告シタモノモ数名アルガ、何レモ同時ニ兩側ニ行ツタモノデハナイ。著者ハ此ノ他、同様ナ例ヲ 4 例有スルガ觀察期間ガ短イタメニ此處ニハ報告シナイ。又例數モ少ナイカラ結論ニハ達シナイ。(池上抄)

## 一側胸廓成形術、他側人工氣胸術ノ併用ニ就テ

E. Ladeck: Zur kombination von Thorakoplastik auf der einen und Pneumothorax auf der anderen Seite.

兩法ノ併用ニヨリ豫期シタ效果ハ得ラレナカツタケレド、恰モ兩側氣胸ニ於ケルガ如ク何等ノ自覺的苦痛ヲ來サズ。夫故適當ナ症例ニ對シテハ將來本法ガ施行サレテヨイ。(池上抄)

## 油胸後ニ於ケル氣管枝瘻形成ノ 1 例

Leon Kogan, Kawno: Ein Fall der Bronchialfistelbildung nach dem Oleothorax.

從來油胸ハ危險ナキ治療法トサレテ居リ文獻ニ見ルモ氣管枝瘻形成ノ報告ハナイ。偶々記載ガアツテモ其ノ可能性ヲ述ベテ居ルニ過ギス。著者ノ例ハ油胸ニヨリ胸腔内壓ガ高カツタ爲テナク肋膜ガ菲薄ダツタニヨル。夫故、油胸ハ肋膜ノ肥厚アル場合ニ限り行フベキモノデアアル。(池上抄)

## 横隔膜神經捻除ト咯血

Jessen: Phrenicusexhairese und Lungenblutung.

獨乙ノ文獻テハ著者ノ知り得タ範圍テ横神捻除ガ咯血ヲ止メル方法トシテ記載サレタモノヲ殆ンドナク、外國ノ文獻テモ此ノ問題ニ就テ述ベラレタモノハ甚ダ少ナイ。著者ノ 1 例ハ急性結核テ纖維化ノ傾向ナク有空洞テ人工氣胸ヲ行ツテ居タ患者デアアル。3 日間持續的ニ多量ノ咯血アリテ如何ナル止血劑モ無効、其處テ強壓氣胸ヲ施シタガ亦間ナク持續的ノ咯血ガ始リ終ニ横神捻除ニヨリテ止血セシメ得タモノデアアル。本例ハ横隔膜ニ近ク癒着ガアリ横神捻除ニヨリ始メテ空洞ノ縮小ヲ計リ得タモノテ Orsos 氏ノ説ノ正シキコトヲ實證スルモノデアアル。(池上抄)

## 肺臓内大浸潤ノ消退性ニ就テ

Friedrich Koester: Über die Rückbildungsfähigkeit großer Lungeninfiltrierungen.

近年小兒期結核ノ發育、經過型ニ關スル學問ノ智識ハ肺浸潤(周局炎)ノ定義ノ確立及ビ正確、詳細ニサルハコトニヨリテ著シク擴大サレタ。此ノ浸潤ハ消退性ノ大ナルコトヲ特徴トシ就中小兒ニ於テハ刺戟感受性大ナル體質モノニ來ル、諸家ノ報告ニヨレバ本浸潤ハ 2—5 歳ノモノニ多キモ著者ノ例ハ 17 歳ノモノヲ殆ンド右肺全體ニ互ル浸潤ノ發生竝ニ消退ノ迅速且ツ殆ンド完全ナルコトヲ レントゲン寫眞ニ就テ説明ス。(池上抄)

北高加索山岳地帯住民(成人)ニ對スル B. C.

## G. 皮下接種

N. Z. Kritschewsky; Vaccination der erwachsenen ossetischen Bevölkerung des Nord kaukasus mittels subcutanen Verfahrens nach Calmette-Guerin) B. C. G.)

著者ハ カルメット氏皮下接種法ヲ以テ北高加索山岳地方ノ住民ニ B. C. G. ノ接種ヲ試ミタ。其處ノ住民達ハ其ノ村落ヘ初メテ結核ガ輸入サレタ結果多數ノ急性結核患者ヲ出シタモノデアアル。皮下接種ハ可成リ屢々小浸潤、膿瘍ヲ接種部位ニ來サシメ而モ其ノ發現ハ注射量ニ關係スル、故ニ必要量ヲ種々ノ部位ニ多數分ケテ注射スルガヨイ。(池上抄)

## 結核患者血液ヨリノ結核菌培養試験

Kurt Jontofsohn: Versuche zur Züchtung von Tuberkelbazillen aus dem Blute bei Tuberkulosen.

血液ヨリノ結核菌培養ノ歴史ヲ簡單ニ紹介シテ著者ノ成績ヲ報告ス、41 例ノ重症肺結核及ビ 1 例ノ重症外科的結核患者ニ就テ レーウエンスタイン氏法ニ從ヒ血液培養ヲ行ツタ。其中唯 3 例ノ肺結核患者ニ於テ結核菌ガ辛ジテ僅少ニ發育シタ。夫故重症結核ノ場合ニハ菌ガ極ク僅カ而モ恐ラクハ弱メラレタ状態テ血液ノ中ニ存スルモノト思ハレル。(池上抄)

## 結核症ノ發生及ビ經過ニ對スル感染菌量、自然抵抗及ビ後天性免疫ノ意義ニ關スル實驗的研究

Bruno Lunge: Experimentelle Untersuchungen über die Bedeutung von Infektions, natürlicher Resistenz und erworbener Immunität für Ents-

tehung und Verlauf der Tuberkulose.

初感染ノ發現經過ニ對スル 感染菌量ノ問題、孤立性臟器結核ノ原因。成人肺結核ノ出發點トナル處ノ肺上野ニ存スル病竈ガ、主トシテ 血行性ニ生ズルモノカハ氣道性ニ生ズルモノカ等ノ重要ナ問題ハ今日尙ホ闡明サレテ居ナイ。著者ハ海猿、兎羊、三種ノ動物ヲ用ヒテ如上ノ問題ヲ 實驗的ニ研究シ之ヲ以テ人間ニ於ケル場合ヲ類推セントスル。尙ホ本研究ハ次號ニ繼續發表セラル、モノテ本號ニ完結サレテキナイ。

(池上抄)

肺結核ニ於ケル赤沈商、(ルツツ、ワール兩氏ノ本誌 59 卷 2/3 冊ニ於ケル同一論說ニ對スル注意)

Alfred Flatzack: Der Senkungsquotient bei Lungentuberkulose. Bemerkungen zu dem gleichnamigen Artikel von Lutz und Wahl in Bd. 59 H. 2/3 dieser Zeitschrift

ルツツ。ワール兩氏ノ赤沈商ト云フノハ赤沈速度ノ 1 時間値、2 時間値ノ比較テ 1 時間値ノ大ナル時ハ  $Q > 1$  トシ、2 時間値ノ大ナル時ハ  $Q < 1$  ト記載シ此ノ關係ニ豫後上ノ特別ノ意義ヲ認メテキルガ著者ハ此ノ方法ニ對シ赤沈 1 時間値ガ 30 以上場合不賛成ノ意見ヲ述ブ。又赤沈速度夫自身ガ罹患状態ヲ示ス處カラ殊更ニ商ヲ求ムル 迂遠ナ方法ヲ用フルニ及バヌト主張ス。

(池上抄)

## The American Review of Tuberculosis Vol. XXVI, No. 1. July. 1932.

天竺鼠ノ實驗的結核ノ淋巴腺ト夫等ノ免疫ニ對スル關係

Henry Sewall, Eugene de Savitsch & Charles Butler: The nodules of experimental tuberculosis in the guinea pig and their relations to immunity.

結核菌接種ニヨリ 淋巴腺ノ初期變化及血管竝ニ周圍組織ノ變化ヲ研究シタルモノナリ。初期變化ノ潛伏期ハ接種量ニ反比例シテ異ルモノシテ組織ノ刺戟ニ依リ短縮サル、ガ如ク思ハル。淋巴腺ノ變化スルニ當リ病竈ニハ 興奮ト制止トガ相伴ツテ來ル。結核菌ノ純培養ノ 0.01 mgm ヲ接種セバ 淋巴腺腫脹ニ際シテハ皮下組織ニ輕度ノ硬結ヲ來ス。斯ノ如キ變化ハ最大量ナル 10mgm 迄ニ達スルニ從ヒ甚シク増加スル。是等ハ炎衝ニ起源シ浮腫ノ水分ヲ固定スル結果

國際聯盟衛生部トカルメット免疫ノ成績統計

Siegfried Posenfeld: Die Hygienesektion des Völkerbundes und die Erfolgstatistik der Calmetteschen Immunisierung

Berghaus ニ對スル駁論中ニ Calmette ハ B. C. G. 免疫ノ成績統計ノ數個ハ國際聯盟ノ統計家ノ參考トシテ提出サレテ居ル事實ヲ擧ゲタ。コノ「提出」ト云フ言葉ハ何モノノ統計ノ性質ノ批判ニ關係ノ無イ事デアアルガ、或ル人々ハ恰モ 國聯ノ統計委員會ガコレヲ異議ナキモノトシテ承認シタカノ印象ヲ與ヘルカモ知レヌ。

1928 年ニ Paris テ Calmette 氏免疫法ニ就テノ協議ガアツタ時ニ、國際聯盟衛生部ニ對シ 正確ナ成績統計ヲ得ル爲ノ規準ヲ定メル事ヲ依頼シ今後ノ統計ヲ之レヲ準據サセヤウトノ動議ガ出テ採擇サレタ、1929 年 4 月衛生部ハ Berlin テ開カレタ統計委員會ニ於テ之レヲ附議セシメテ、コノ會ガ、接種者及ビ對稱兒童ヲ公平ニ選ムト云フ點ヲ主トスル覺書ヲ作ツタ。著者ノ記憶ニヨルト Calmette 氏ガ提出シタノハコノ會ノ開催以前デアツテ、ソノ統計ハ一ツトシテ規準ヲ認知シ上テ作ラレタモノテハナイ。又衛生部ノ慣例トシテ委員ハ協議事項ニ關スルスベテノ報告ヲ接受スル事ニナツテ居リ B. C. G. ニ關シテノミ例外ハアリ得ナイ筈ナノニ、委員ノ人タル自分ハ今迄氏ノ統計ニ就テ何ノ報告ヲモ受ケテ居ナイ。(柴田抄)

非特異性ノ化學的物質ノ刺戟ニヨルモノラシイ。1 乃至 10mgm ノ大量ノ菌ヲ接種セバ 感染ノ影響ニヨル速度及生理的性質ハ再感染ハ特有ナリト記載サレタル性質ニ甚ダ近似シテ來ル。天竺鼠ノ一側鼠蹊部ニ接種シテ後日他側ニ再接種スル時ハ第二量接種後ニ形成サル、淋巴腺ノ變化ハ初感染淋巴腺ト同様ナル物理的性状ヲ現ハス、然シ試獸及對照獸ノ初感染ニ比スレバ二次腺ノ潛伏期ハ最初ノ日カラ次第ニ短縮サレル。初感染ト再感染ノ間隔ガ略々 7 日ニ及ベバ再感染ノ淋巴腺ノ潛伏期ハ突然甚ダシク増大シテ反對側ノ初感染ノ初期淋巴腺變化ガ出現スルニ要スル時間ニ近クナル。其後ハ再感染ニ對スル反應ハソノ間隔如何ニヨラズソノ加速度ヲ持續スル。反側ノ鼠蹊部ニ結核菌ヲ再接種シテ 5 日以内ニ Tuberculin ヲ注射シテモ對照獸ニ比シテ初感染ノ潛伏期ヲ短縮

スル様ニハ見エナイ。之ハ組織細胞ノ共同反應ト想像サレルガ決シテ結核菌ト tuberculin トガ一定ノ免疫學上ノ意義ヲ有スルモノデハナイ。此試験ニヨリ通常ノ菌量即純培養菌ノ 0.1mgm ノ重サマデハ初感染ニ次テ少クトモ 1 日乃至 123 日ノ間隔ニ於テ再感染ガ必ズ起ス時ノ淋巴腺ノ反應ヲ發見シタコトニナル。初感染ト再感染ノ間隔ガ 26 日ヲ超エナイ時ハ再感染テ肥大シタル淋巴腺ハ軟化シ且ツ壞瘍トナリ皮膚面ニ現ハレルノハ初感染ト同様デアアルガ再感染淋巴腺ノ壞瘍化ハ加速度的デアイト云ヘル。

2 回ノ接種間ノ間隔ガ増セバ 44 日ニ於テハ 0.01 mgm 接種後ニハ再感染部軟化淋巴腺ハ壞瘍トハナラナイガ 0.1mgm 又ハソレ以上デハ壞瘍ヲ作ル。間隔ガ 50 日ヲ超シテ 0.1 mgm ノ結核菌ヲ再接種セバ淋巴腺ヨリ膿瘍ヲ生ヅルガ壞瘍トハナラナイテ途ニハ吸收サレルラシク再感染部ノ皮膚ハ無傷ニ殘ツテ居ル。

前ノ實驗ニヨルニ天竺鼠ニ就テ免疫學上ノ立場カラ見ルニ初感染ト再感染トノ間ノ適應間隔ハ適度ノ菌量ヲ以テセバ約 70 日デアアル。著者等ノ結論トシテハ Koch 現象ハ想像的概念デアツテソノ有要サハ細目ヲ嚴格ニ定義スルコトニ依ツテ害サレルモノデアアル。

(寺尾抄)

#### 白鼠ニ據ル實驗的結核

M. Maxim Steinbach: Experimental tuberculosis in the albino rat. The comparative effects of avitaminosis, suprarenalectomy and thyroid-parathyroidectomy on experimental tuberculosis.

健常鼠ハ人型及牛型結核菌ニ對シテハソノ感染ニ對スル抵抗ハ頗ル大ナリ。コノ免疫ニハ年齢ハ關係ガナイ。大量ヲ腹腔内ニ注射シテモ健常鼠ハ鳥型結核菌ニ對シテハ輕微ニ罹患スルノミダ。

Avitaminosis ハ鳥型結核菌ニ對スル白鼠ノ抵抗力ヲ減ズルガ獸型菌ニ對シテハ之ヲ減少セシメナイ。副腎切除ヲ行フ時ハ鳥型及牛型菌ニ對スル白鼠ノ抵抗力ガ減ズルガ人型結核菌ニ對スル動物ノ抵抗力ヲ侵サナイ。副甲狀腺ヲ切除セバ之ガ因子トナリ牛型菌ニ對スル抵抗力ヲ低メルガ人型株ニ對シテハ影響ガナイ。甲狀腺及副甲狀腺ノ切除ヲ行ハバ人型菌及牛型菌ノ感染ヲナシ得ル。白鼠ニ於テ生ズル結核症ハ肉眼のニモ顯微鏡のニモ他ノ實驗動物又ハ人類ノ夫ト異ルトコトガナイ。健常成育鼠ニ屢々見ル偽結核

症ヲ鑑別スルニ注意ヲ要スル。之ハ組織學的研索ヲ行ハバ眞ノ結節ト混同スルコトガナイ。(寺尾抄)

#### 左側横隔膜擦除後ニ合併症トシテ來ル腹部臓器ノ振搖

G. E. Ehrenburg: Fluttering of the abdominal viscera as a complication following left-sided phrenicoexairesis

左側横隔膜擦除ヲ行ヒタル後 X-線検査ヲ行ヒタルモノシテ之ニ由レバ胃及十二指腸ハ左上方ニ移動シ之ノ移動ハ呼吸時ヨリモ吸氣時ニ著シク起ル。十二指腸ハ X-線検査ニヨレバ普通球部ト下行部ハ直角ヲナスモノナレドモ擦除後ハ著シク變形シテ弓狀ノモノハ直線ニ近付ク。吸氣時ト呼氣時ノ film ヲ比較スルニ幽門ト十二指腸ハ右側ヨリ左側ニ搖レルヲ認メラレソノ移動距離ハ約 2 吋ナリ。胃ハ大ナル氣泡トシテ見エ容易ニ嚔ヲ出シ數秒ニシテ舊狀ニ復ス。胃及十二指腸ノ緊張ハ非常ニ亢マリ、胃ハ速ニ空虚トナリ一般ニ 2 時間内ニ空虚トナル。十二指腸ノ振搖ハ内臓ニ一定不變ノ刺戟ヲ與ヘソノタメニ不消化ノ色々な症狀ヲ現ハスコトハ明カデアアル。是等ノ消化器障碍ハ人一ヨリテハ厄介ナモノデアアルガ而モ之ニ由リ恢復ガ妨ゲラル、事ハナイ。輕度ノ食餌ヲ屢々攝取スル様ニセバ是等ノ症狀ハ和ラゲルコトガテキル。著者ハコノ合併症ニ對シテ腹部内臓振搖 „fluttering of the abdominal viscera” トイフ固有な名詞ヲ附スルヲ妥當ナリト認ム。(寺尾抄)

#### 近時ノ結核早期診斷

D. S. Brachman: Modern case-finding in tuberculosis.

近時ノ結核早期發見ト幼兒及青年ノ tuberculin 検査ヲ行ヒ反應陽性者ニ對シテハ X-線検査ヲ行フコトヲ意味ス。X-線透視ニヨリ病的變化ガアリ又ハ疑ハシキ場合ニハ患者ト接觸ノ有無及既往症ヲ詳細ニ調査シ徹底的ニ物理學的検査ヲスルガ望マシイ、診斷ヲ下スニハ成人型結核ト幼兒型結核及疑問症ニ區別シ疑問症ハ 4 乃至 6 ヶ月内ニ更ニ透視シテ決定的ニ區分スルヲ要スル。成人型ハ最も嚴密ニ且病理的變化及全身狀態ヲ十分ニ考察スベキデアアル。幼兒型ハ成人型ヲ招來スルモノトシテ遺ル。コノ種ノ型ヲ有スル小兒ハ 20 歳迄ハ 6 ヶ月毎ニ X-線診察ヲ行フベキデアアル。著者等ハ高等學校生徒ノ 0.6% ハ成人型結核ヲ有積極的治療ト登校禁止ヲ要シ 5% ハ小兒型結核ヲ

有スルコトヲ發見シタ。結核ヲ有スル大多數ノ生徒ハ發病後暫クハ之ヲ意識シナイ。高等學校ノ生徒ハ結核罹患ヲ意識セル傳染源ト接觸シナクテモ結核ニ感染スルニ至リ得ルモノダ。若シ接觸ノ既往ノミカラ見ルト1例シカ接觸シタ者ガナイカラ14例ノ患者中1例シカ發見サレナイコトニナル。

高等學校ニ於ケルコノ業績ニ依ツテ見ルト凡テノ成人ハ殊ニ35歳迄ハ tuberculin 検査ヲヤラズトモ何等ノ症狀ナクテモ X線検査ヲヤルベキデアル。X線診察ナシニハ結核ヲ非定スル診斷ヲ下シテハナラナイ。Detroit Tuberculosis Society テハ高等學校卒業者ノ健康診斷ハ物理的の検査ニ依ルヲ例トセルモ將來ハ Tuberculin 検査ヲ行ヒ反應者ヲ X線診察スルコトトナラウ。コノ方法ニヨリ早檢診斷ヲナシ次テ適應症ニハ外科的肺萎縮療法ヲ行ヒ以テ容易ニ治療セシメル。現時ノ療養所患者ノ50%以下ハ外科的治療ヲ受ケテ居ル。

要之一般醫師ハ近代的手段ニヨリ徹底の結核ノ早期診斷ヲナシ又之ガ智識ノ普及ニ努メ從ツテ結核ノ診斷及治療ニ就テハ十分ナル智識ヲ有スルコトニ努メテ對結核戰ノ第一線ニ立ツ心掛ガナケレバナラナイ。

(寺尾抄)

#### 醫學生間ノ結核

John Steidl: Tuberculosis among medical students.

著者ハ Harvard Medical School 醫學生ニ就テ 1921年ヨリ 1929年間ノ學生及卒業生 1005名ニ對シテ結核ニ罹患シタルモノ、有無、何學年頃又卒業後何年間ニ發病シタカ又ハイカナル診斷法ニヨリ結核ナルヲ知ツタカラ調査シタ結果ヲ報告シタモノガ其内回答ヲ寄セタ者ハ 556名デアツタ。内 14名(2.5%)ハ發病シタモノテ 6名ハ在學中 7名ハ卒業後間モナク發病シ 1名ハ入學數年前ニ發病シタ居タラシイトノ

回答デアツタ、1名以外ハ皆 X線診斷ニ據ツテ居ル。コノ 1名ハ X線ノ事ハ書イテナイガ喀痰中菌陽性デアツタト。Harvard Law Schvol ノ學生 1920年ヨリ 1924年間ノ 1054名ニ問合セタトコロテハ 579名ノ回答アリ内 12名(2.08%)ガ結核トナツタ、内 2名ノミガ三學年ノ時ニ發病他ハ卒業後 1年乃至 10年後ニ發病シテ居ル。カク少數例ヨリ決論ヲ下スコトハ必ズシモ正鵠ヲ得ナイガ醫科ハ法科ニ比シテ 0.5位シカ多クナイ。法科テハ 2人ガ在學中發病シテ居ラノニ醫科テハ半數ハ在學中テ而モ多クハ第三學年中發病シテ居ルノハ注意スベキデアル。

結核菌ニ感染スル機會ハ在學中テ而モムシロ病院勤務中ノ方が多イノニコノ事實ハ成人ノ初感染カ外來的ノ再感染ノ論證トシテ見ルベキデアル。然シ眞實何が起ツタカラ決定スルニハ餘リニ例ガ少ナ過ギル。醫學生間ノ結核問題ヲ統計の方法ニヨリ解カントスルコトハ好マシクナイ。二三ノ結核相談所ニ於テハ Tuberculin ト X線 film ニヨリ結核問題解決ノ理想ニ庶カラシメテ居ル。十分ニ究メヤウトスルニハ巧ニ撮リ現像シタ立體鏡ニカケテ見ルト肺結核ノ診斷ハ他ノ何レノ方法ニヨルヨリモ早期ニ診斷ガツクモノダ、カクシナケレバ完全ナル胸部診斷ハ出來ナイ。1922年ヨリ 1930年マデニ 143人ノ醫學生及醫師ガ Trudeau Sanatorium へ入院シタガ 70%ハ可成又ハ遙ニ進行シタモノハ 79%アツタ。コノコトハ醫學生又ハ醫師間ノ結核早期診斷ニハナスベキコトガ尙多ク殘サレテ居ルコトヲ示シテ居ルト思ハレル。若シ醫學校テソノ學生ニ對シテ理想的の公衆衛生實務ヲ實行スルナラバ診斷ニモツト努力シテ病氣ノ治療期ヲ失ハシメナイ様ニセテバナラス。現時ニ於テハ早期診斷ノ最良簡便ノ法ハ健康相ニ見エル者モ引クルメテ凡テノ學生ニ就テ胸部ノ X線検査ヲ施行スルニアル。

(寺尾抄)